

1 題材 相手の気持ちを考えてメールしよう

2 情報モラルの育成に関する目標

メール使用について事例を基に話し合い、保護者と共にメールの使い方について考えることができる。

3 情報モラルの育成を検証する場面と方法

保護者と共にメールの内容を考えることで、メールの内容を振り返り、相手に不快感をもたれにくいメールを考えているかワークシートで検証をする。

4 情報モラルの育成により期待される効果

日常生活において、メールを使用する際に、言葉が足りないことや相手を不快に思わせる言葉を書き込むことによって発生するトラブルを回避することができる。

5 実践の様子

(1) 相手の気持ちを考えてメールをしよう

本実践は、授業参観で行った。保護者と共に携帯電話の使用について考えていただく良い機会となった。本時は、大きく分けて以下の三つの場面を設定した。

① 子どもに回答してもらった実態調査を集計したもの的一部（主に携帯の所有率について）を提示することで、学級全体で考えてもらう場面 「知識」

手立て：実態調査のデータを提示 保護者と子どもが同じ情報を共有

② 二つの事例を提示し、その事例に基づいて考えを深める場面 「思考」

手立て：「私たちの道徳」より事例を出すことで、後に親子で振り返ることが可能

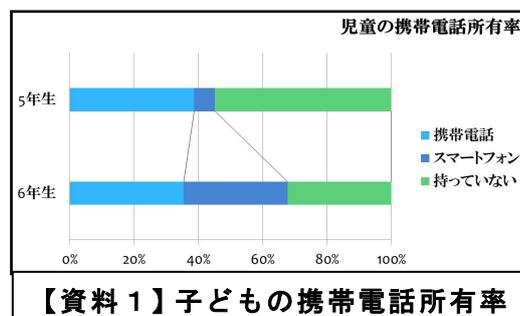
③ メールについて保護者と考える場面 「行動」

手立て：保護者と共に正しいメールの使用方法の確認

以上の三つの場면을1時間の中で行うことで、子どもがより多くのことを学ぶことができると考えた。

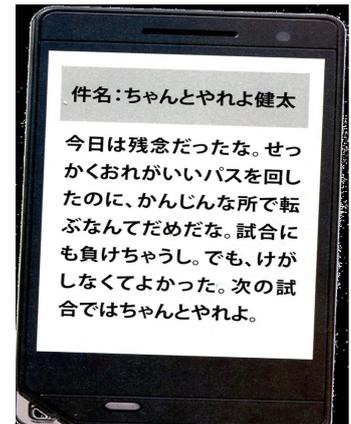
①の場面では、5年生のときと比較したデータを見ることで、携帯電話を所有している割合が増加していることを肌で感じてもらいたいため、実態調査の結果の一部を児童と保護者に提示した。学級の話し合いでは、子どもが携帯電話をどのような場面で、どのように使用しているのかということ全体で共有することができた。その用途は主にメール、SNS、ゲーム、動画の閲覧であった。

また、保護者の方も学級の現状を理解してもらうことで、できることを考えてもらう機会となった。保護者も子どもたちの実態を知っていただくことで、決してテレビの中の話ではなく、現



実として、自分の子どもも同じような環境に置かれていることを知ってもらうことができた。

②の場面では、「私たちの道徳」の中から事例を選ぶことで、授業だけでなく家庭でも振り返りができることを前提として用いた。この中の事例が、学級の実態と少し乖離している部分もあったが、携帯電話を所持していない子にとっては、十分な内容であった。メールを通して、自分の思いに反して話が進んでいってしまうところに、多くの子どもたちは、メールで伝えることの難しさを感じ取ることができていた。



転んでしまい、試合にも負けて、おちこんでるのに、そういうメールを送るのは、ひどいと思った。

【資料2】事例の紹介
児童の感想

③の場面では、実際にどのようなメールが相手に伝わりやすいのか親子で考える時間を設けた。日頃、子どもが打つメールの文を見た保護者から「そんな言葉だと誤解がされることがあるよ。」「もう少し優しい言葉を使ってみよう。」と具体的なアドバイスが多く聞かれた。



メールをするときに気を付けることや、もしトラブルになったときにはどうすれば良いのかを発表させると、「親や先生に相談する。」「トラブルにならないように書く内容に気を付ける。」といった発言がでた。

【資料3】親子で考える場面

悪口、個人情報など他人に関することは書きこまないようにする。
相手が傷つくことじゃないかを考えてからメールを送る。(相手の知らない所で悪口を書きこまないようにする。)
このメールを相手が見ていやな思いをしないか、びびりや生かような言葉はないかを考える。

クラスのアンケート結果による具体的な数字が出ていて、子供達も身近な事として考え、授業に取り組みやすそうでした。
私自身もネット環境によって勉強不足な面があり、きちんとした知識を持って子供と向き合えなければいけない、と思いました。親向けの勉強会などあればいいな、と思いました。
家庭ではメールの中内容をチェックしてはいますが、いつまで見せてくれるでしょうか。良い、悪いの区別しだせませんが、気持ちやかわるとついと言うのが怖いです。これから家庭で見守りたいと思いました。

【資料4】授業後の児童の感想（左）と保護者の感想（右）

6 成果と課題

- 保護者と共にメールの文章について考えることができたことは双方にとって有益であった。
- 事例を提示することで、子どもが自分の問題としてとらえやすいことが分かった。
- 事例を二つ紹介したことで、「思考」をより深める時間が短くなってしまった。